

地本業務ニュース

JR 東海労・静岡地方本部

NO.7 2023年3月4日発行者：JR東海労静岡地方本部 半場 弘恭

「申」第10号の業務委員会開催！！

3月3日、静岡支社において「申」第10号東海道本線パンタグラフ損傷についての業務委員会が開催され、説明を受けました。内容と主なやり取りは、以下のとおりです。

1. 事故の概況と時系列を明らかにすること。

回答：6時08分、当日の初列車である721M運転士から「天竜川～浜松駅間にてアークが発生した」との報告があり、浜松駅にて点検したところパンタグラフに変形を認めた。その後、東海指令から稲沢駅に停車中の721Mの後続であった、1055列車のパンタグラフに変形が発見されたとの連絡を受けたため、運転を見合わせ設備点検を実施した。9時11分、添乗中の電力係員が豊田町～天竜川駅間249K770mの下り線の電柱ビーム付近に、工事において撤去を忘れていた配電線の一部を発見した。撤去作業を行い、10時23分に全線の運転を再開した。

2. 事故の原因を明らかにすること。

回答：①工事指揮者が、具体的な作業計画が出来ておらず、当該箇

所での作業手順が不明確であったため。

②作業責任者が、当該箇所の作業完了の確認をせずに次箇所に移動したため。

③工事指揮者が、後点検で電柱付近に立ち止まり詳細に確認しなかったため。

3. 同種事故の再発防止対策を明らかにすること。

回答：①配電線撤去作業の際は、作業手順書を作成する。

②柱上での撤去作業は、ダブルチェックを行う。

主なやり取り

組合：撤去されなかった配電線だが長さは？

会社：4.7 mである。

組合：垂れ下がっていたのか？

会社：そのとおりである。

組合：何故、架線を損傷したのか？

会社：風でたなびき、架線に触れたと考えている。

組合：風でたなびくような重さなのか？

会社：実際にパンタグラフを損傷しているので、そのように推察している。

組合：工事指揮者と作業責任者の違いは？

会社：工事指揮者は管理者で作業には手を出さないが、作業責任者は作業をする。工事指揮者の下に作業責任者がいる。

組合：作業時間は、十分に確保されていたのか？

会社：十分に確保していた。

組合：作業人数は十分だったか？

会社：十分に手配していた。

組合：作業員に疲れはなかったか？

会社：それもない、法令上の違反はない。コンプライアンスは守っている。

組合：工事におけるコストダウンはあったのか？

会社：やれる範囲のコストダウンはしてもらうが、今回の工事についてはない。本体が要求するのではなく、企業努力だと捉えている。

組合：工事が中止になっているが、ペナルティーか？

会社：それはないが、考える時間を設けた。

組合：中部運輸局に報告したのか？

会社：プレス発表があり、中部運輸局から問い合わせがあったので、詳細を説明した。

組合：こちらからの報告ではないのか？

会社：事案による。今回は報告していない。

組合：この事象による、東海道線の影響は？

会社：運休16本、部分運休16本、旅客人員は7,000人である。

以上